SCREEN

EQUIOS

User Report：株式会社セントラルプロフィックス

刷版出力までの自動化と人材の適正配置を実現し、壮大な構想の第一歩を踏み出す

製版専業からスタートしてやがて印刷分野に参入し、製版・印刷両面の技術を高めながらどんどんビジネス領域を拡大してきた株式会社セントラルプロフィックス。2013年春にはいち早くEQUIOSを導入し、刷版出力までの自動化と2サイト運用における高効率な生産工程を実現した。今後はフロントの営業との連携、後加工との連携などを進め、もう一段上の効率化、省力化を進めていくつもりだ。



専務取締役　生産本部長
森澤　弘 氏



クロスメディア部　部長
栗原　秀樹 氏

「本機校正同一機印刷」に不可欠なワークフロー

株式会社セントラルプロフィックスは、本機による高精度な校正刷りで定評がある。もともと製版専業であったが、本機校正に使ったものと同じ印刷機で印刷する製品が取引先の印刷会社から高く評価され、印刷の仕事量を急速に伸ばしていった。一方でD-art事業部における紙への印刷以外の仕事も増え、建装材やサイン・ディスプレー関係でも確かな実績を積み重ねてきた。

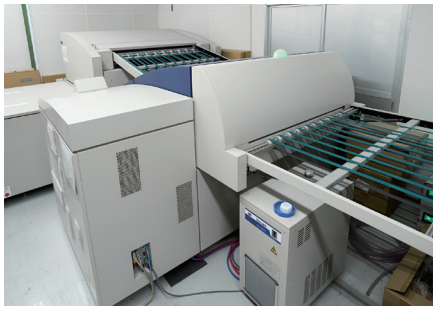
2013年にはデジタルエンボスシステム「Scodix S Digital Press」を導入し、翌2014年にはScodixとビジネスのマッチング性が高いハイエンドオンデマンド印刷機の導入も行い、広告宣伝に有効な付加価値の高い商品を次々に生み出してきた。それでも森澤弘専務取締役（生産本部長）は「印刷事業における生産工程では常に完成系を目指しているが、完成系に近づいたと思ってもさらに道が広がり、いまだ先が見えない状況でもある」と語る。その真意を伺った。

「昨年まではインテリジェントRIPと呼ばれるTrueflowを中心に、本社と豊州工場の2サイトで運用していました。Trueflowはある程度完成されていましたし、得意先との汎用性も高く評判も良かったのですが、当時は各部署が単独で動いているようなイメージがありました。つまり、「DTP・CTP出力・校正・印刷」をバラバラに行うのではなく、一気通貫でスムーズに流れるようなワークフローシステムが理想として常に頭にありました」

小ロット・多品種の印刷物を得意とする同社では、JDFを活用した入稿から後加工までの自動化をメインに、個別なフローでは校正刷りにおける大貼りの自動化が課題となっていた。また、ちょうど設備のリプレイスの時期がきていたこともあり、ワークフローを見直すことになった。

メーカー各社のワークフローシステムを比較検討した結果、機能的な部分については各社それほどの差は感じられなかったという。そうした中、決定に至ったのは、やはりTrueflowの資産を継承できることや、印刷業界における導入実績、国内メーカーにおけるサポート体制などだった。そして、それらを総合的に評価した結果、2013年3月、EQUIOSの導入に踏み切った。

森澤専務は「SCREENは国内メーカーであり、日本の印刷産業の現状と未来を見据えて新製品の自社開発に鋭意努力されていますので、その将来性と実績に期待しました。当社の得意先にもTrueflowを活用している会社が非常に多く、Trueflowから書き出されるOutlinePDFが印刷業界では「デジタルフィルム」としてデファクトスタンダードになっていることも決め手の一つでした」と話す。



自社印刷業務の効率アップを実現

同社は24時間稼働のシフト制（3グループ体制）を組んでいる。これはすなわち、EQUIOSを導入するにあたり、シフトごとに最低1人ずつ、計3人のオペレーターをまずは育てねばならないということである。

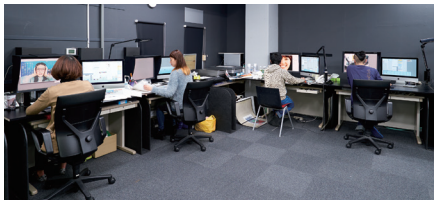
クロスメディア部の栗原秀樹部長は「EQUIOSの立ち上げは、初めはシフト制により苦労しましたが、程なくSCREENの支援を受けながら3人のオペレーターを育て、各シフトの中に投入できたため、それ以降はスムーズに運用できるようになりました」と導入初期の様子を語った。

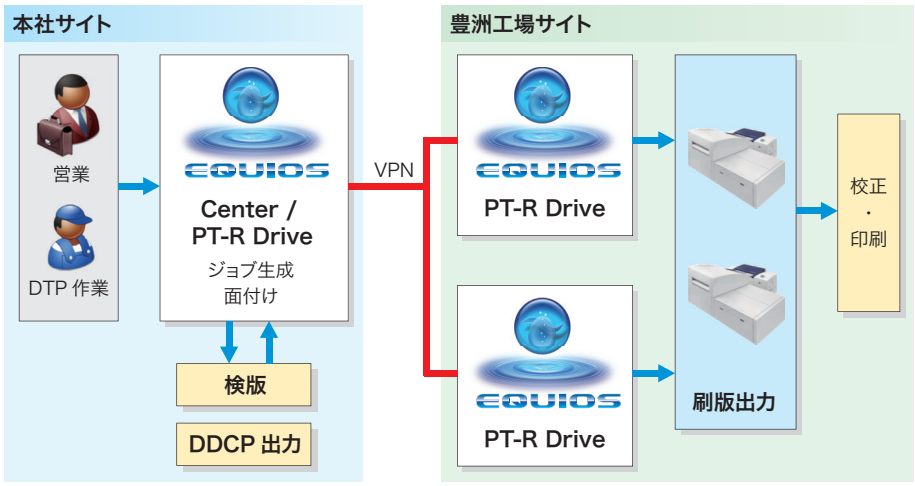
TrueflowとEQUIOSは同メーカーによるほぼ同じ仕組みでもあり、ユーザーインターフェースも似ていることからオペレーターへの教育が軽減できたことも、立ち上がりの早さにつながったそうだ。

EQUIOSの導入効果は既にさまざまな面に表れている。例えばTrueflowを使って本社と豊州工場の2サイトで運用していたときは、CTPの出力オペレーターに「大貼・面付け作業」が集中し、時間帯によってはボトルネックとなってしまっていたが、EQUIOSを導入したことにより、その状況は徐々に改善されてきた。

今では、本社のDTPオペレーターがEQUIOSにて面付けを行い、豊州工場へのCTP出力が指示できるようになり、2サイトでありながらまさに1サイトオペレーションにて人手を極力削減したフローが構築できた。その結果、DTP部門では印刷業務に関する知識も高まり、CTP出力部門では人員配置の最適化が図られ、業務の幅も広がった。

EQUIOSはTrueflowと比べて面付け機能に優れているため、生産性は大幅に向上。既に自社完結における印刷業務は基本的に全てEQUIOSで流しており、安定的でかつ高生産フローを組むことができた。これにより、自社印刷業務の効率アップが実現できた。





「ハードウエアの高機能化とRIPのエンジンが向上したこともあって、スピードも品質もこれまで以上に安定しました。Trueflowを使っていたときは、CTPオペレーターにおける単独の大貼り&面付け作業がボトルネックとなっていましたが、それがかなり軽減できました。これは大きな成果です」と栗原部長。

営業の省力化、効率化にも活用

EQUIOSを導入して1年半が過ぎ、刷版出力までの自動化は自社印刷業務に限りほぼ完了した。今後の課題は、営業担当者が入力した情報をEQUIOSで受け取る仕組み、つまりMISとの連携を作り上げていくことだ。

「受注情報等の伝票入力業務、見積書や請求書作成、社内における確認作業など、大ロットの仕事も小ロットの仕事もそこにかかる作業は変わりません。小ロット・多品種がメイン業務の当社に至っては、そこの営業に掛かる負荷軽減はこれからの課題ですが、全社での高効率を目指し、一気通貫のワークフローをつくり上げていきたいと考えています。また、2サイト運用における追加作業等の指示伝票のFAX送信、校正刷りの持ち運びなどに掛かる手間も決して小さくありません。将来は、これらの業務をEQUIOS Onlineを使って極力人の手が掛からない業務フローを確立していきたい」と森澤専務。

EQUIOS Onlineに至っては、営業担当者にタブレット端末などを携帯させ、外出先でも校正確認や進行状況確認ができるような省力化、効率化も図りたいとのこと。

同社の事業は現在、製版～本機を使った校正刷り業務と印刷まで受注する校正・同一機印刷業務がほぼ7、8割を占める。今後はH-UV・油性におけるオフセット印刷だけでなく、大判高品質UVインクジェットシステムによるオフセット品質での大判印刷、デジタル印刷機とScodixやレーザーカッターとの連携による新しいサービス、さらには、後加工へのJDF連携やさらなるデジタル特殊加工との連携なども視野に入れている。EQUIOSの活用範囲はこれからますます広がっていきそうだ。



株式会社セントラルプロフィックス
住　所　東京都中央区湊3-1-13
代表者　代表取締役社長　田畠 義之
設　立　1950年
従業員数　110人

SCREEN
株式会社 メディアテクノロジー ジャパン
〒135-0044 東京都江東区越中島1-1-1 ヤマタネ深川1号館
http://www.mtjn.co.jp/
東京支店／03(5621)8266(代) 大阪支店／06(6268)6600(代) 名古屋支店／052(218)6400(代)
福岡支店／092(436)7081(代) 北海道営業所／011(726)0707(代) 東北営業所／022(224)1741(代)
新潟営業所／025(241)0112(代) 静岡営業所／054(281)0955(代) 長野営業所／026(224)5770(代)
金沢営業所／076(292)2345(代) 京都営業所／075(326)1350(代) 中国営業所／082(264)6451(代)
四国営業所／087(837)8151(代)

株式会社 SCREEN グラフィックアンドプレシジョンソリューションズ
〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る4丁目
http://www.screen.co.jp/gp

※本カタログは、弊社の Fairdot 2 で印刷しています。
※本カタログは、弊社の千都フォントを使用しています。
※本カタログの各商品名は各社の商標・登録商標です。
※本カタログの仕様ならびに商品デザインは改良のため予告なしに変更されることがあります。
※本カタログに掲載している商品は、日本国内仕様です。

No.190-137 2015年1月発行 060 3SI (R0-0)